

研究室旅行

10/16日に研究室旅行で滋賀県の琵琶湖博物館を訪れました。順路通りに進むと琵琶湖の生い立ちから現在までを時系列通りに鑑賞することができます。400万年の歴史を持つ琵琶湖は時代とともに大きさや形を変え、約40万年前に現在のような形になりました。そして約2万年前に人類が住み着き、漁業だけでなく治水、利水など琵琶湖からの様々な恵みを楽しみ現代まで利用してきました。琵琶湖の周りには複数の流入出河川があり、その源流には森林があり、それらの全てに生態系が分布し、人間活動が行われています。琵琶湖博物館は琵琶湖の枠に収まらず琵琶湖から起因するすべてのものに焦点を当てており、様々な観点から琵琶湖を学ぶことができます。また水族展示室も併設されており、古代湖である琵琶湖の60を超える固有種を中心に同じく古代湖であるロシアのバイカル湖に生息しているバイカルアザラシなども展示されており、童心に帰って楽しみました。昼食にミュージアムレストランにて琵琶湖固有種のビワマスと、近年琵琶湖の生態系問題の中心となっている外来種であるブラックバスの天ぷらを使った天井をいただきました。幼い頃からよく訪れていた琵琶湖でしたが今回の訪問は琵琶湖についての新たな知識を得ることができ、改めて琵琶湖について考え直す非常にいい機会となりました。

